

第30回全国スポーツ祭典卓球大会

大会ニュース No.3 12月7日

新日本スポーツ連盟全国卓球協議会 責任者 北川 登

男子 (千葉) TRF (A) 3年ぶりV

地元・千葉県勢同士の対戦となった男子決勝。準決勝のKuni卓(東京)戦で劇的勝利をおさめたTRF(A)が、前回優勝のWRMを制し3年ぶりの優勝を決めた。TRFは、準決勝・決勝ともに、0-2からの逆転勝ち。決勝戦の終了が21時を過ぎるほど、白熱した戦いだった。Kuni卓は、2回戦で前回準優勝のTEAM SATO(兵庫)を破って勢いに乗ったが、TRFにあと一歩及ばず。個人戦チャンピオン加山選手(97-01年)、柳選手(06-08年)を擁するTEAM SATOは、Kuni卓の若いパワーの前に涙をのんだ。関西クラブ(岡山)はA・Bチームともに健闘した。



TRF (A)



★優勝コメント★ TRF (A) (千葉)
「地元開催ということで目標はベスト4、あわよくば優勝という気持ちで挑みました。トーナメントから接戦の連続でしたが、今回の勝因はチームワーク。決勝は、エースの大塚選手が足を故障しましたが、チームのみんなでカバーしました」

- 【一般男子団体戦】
- 優勝 TRF (A) (千葉)
 - 準優勝 WRM (千葉)
 - 3位 Kuni卓 (東京)
 - T.O.M (A) (東京)



WRM



★優勝コメント★ LaPAN (東京)
「仲の良い友達同士で意気投合して、チームを結成しました。レベルが高くて苦戦することが多かったですが、競り合いながらも、力を出し切って最後は優勝することができました。連覇を目指して頑張ります」



LaPAN

女子 初出場 LaPAN (東京) 初優勝

女子は、LaPAN(東京)が安定した試合運びで、初優勝を飾った。東京勢の強さが目立つなか、台風目の目となったのは日本航空高校(山梨)。飛鳥クラブ、スマイルと東京の強豪チームを破って波に乗ったが、決勝で力尽きた。西日本勢では、ラブandピース(福岡)やPiNGU(大阪)の健闘が光った。



T.O.M



スマイル

- 【一般女子団体戦】
- 優勝 LaPAN (東京)
 - 準優勝 日本航空高校 (山梨)
 - 3位 T.O.M (東京)
 - スマイル (東京)

インタビュー【参加者の声】

〈弘前卓球センター〉(青森)
中学2年生と3年生、高校1年生と2年生の4人。付添のコーチはメンバーのお母さん。かつて青森県予選で優勝したが出場しなかった。今回、子どもたちを連れて初参加。「みんな強くて勝てなかったけど、明日はまた一生懸命頑張ります」



〈鳥海中学校〉(秋田)
初参加。予選リーグは1勝1敗で、残念ながら勝ち上がれませんでした。「経験の差(年令の差?)を感じました。明日は個人戦にもエントリーしているので、若さを爆発させて思いっきり頑張ります」



〈日本航空高校〉(山梨)
顧問の先生は20人の部員を引率し、男女で2チーム参加した。女子は、準優勝の快挙。「まだ、1・2年生だが、これからまだまだ伸びしろがある子どもたちです。次の関東大会に向けて、この大会の経験を踏まえ頑張りたいと思います」



〈拓征会〉(岩手)
東北勢で唯一予選リーグ1位通過。「初めての出場でしたが接戦で紙一重で勝ち上がることができました。普段楽しく練習していることが試合に生きたと思います」と通過の喜びを語ってくれました。「決勝トーナメントは強豪ぞろい、でも精一杯頑張ります」



〈シリウス〉(愛知)
「最後の試合は相手が強すぎて卓球になりませんが、チームが一丸となって誰かが負けてもだれかが勝って、決勝トーナメント2回戦まで来ることができました。ありがとう仲間たち！」



〈竹取クラブ〉(奈良)
かぐや姫の発祥の地から親子2組で参加。お母さんたちは若い選手に歯が立たず、予選リーグで敗退。子どもたちは「ディズニーランドに行きたい」

